

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第95号

発行日：令和4年11月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市まち資源室文化振興課内

市民ガイド(令和4年度 第2回ガイドブックを片手に伊丹を歩こう) 『御願塚古墳と南野地区』

9月17日に、当会主催であるガイドブック片手に伊丹を歩こう「御願塚古墳周辺と南部地区」が開催されました。この企画は本年度では第2回、通算第5回となります。

当日は台風接近の予報もあり心配しましたが、風が強かったものの雨に降られることは無く、無事予定通りの行程を終えることが出来ました。

この地域の一番の特徴は県史跡指定されている御願塚古墳かと思えます。



墳頂には南神社が祀られていて、御願塚地区でとても大切にされています。

須佐男神社では御願塚村のご協力により、社殿覆屋の扉を開けていただき、いつもはガラス越しで見えていた本殿(市指定文化財)を直接拝



見することが出来ました。

また御願塚地区には都市景観形成建築物に指定された建物が3つあり、かつての御願塚村の雰囲気而今に伝えています。

旧南野村である南野地区には、県指定の無形民俗文化財であるむぎわら音頭が継承されていて、文化財は形があるものだけでなく、人々の心や世代間で伝えられていくことの大切さを改めて感じることが出来ました。

ご参加いただいたお客様から同行中に様々なご質問



をいただき、伊丹の史跡、文化財について関心の深さを知ると同時に、気付きを与えていただきました。

とくに印象に残ったお言葉をご紹介します。ご紹介します。ご紹介します。ご紹介します。

「私は5年前から伊丹市民になりましたが、伊丹は特に水路が素晴らしい。それはまだまだ農地が残っているからだと思います。農地や水路をなんとか文化財として保存して守っていくことはできないでしょうか」

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドをご希望される方は伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

御願塚古墳周囲の堀や、この地区を流れる
昆陽井からそう感じて下さったと思います。

しかしながら農地も趣のある古い町屋も、気
づけば新しい家屋やマンションに変わっている
ことが多々あり、お客様が高く評価して下さった
景観も日々失われていきます。

伊丹市内の文化財に触れお客様と共に歩いて、改めて守っていくこと、伝えていくことの大切
さを感じた一日でもありました。

(竹本 記)



研修旅行(令和4年10月18日)

『黒田官兵衛のふるさと姫路を歩く』

10月18日、伊丹市文化財ボランティアの会
主催の研修旅行「黒田官兵衛のふるさと姫路を
歩く」が実施され、世話役を務めた。



当日は朝から好天に恵まれた。前日の雨が
一部残ることも覚悟していたが、参加者のなか
に「晴れ女」「晴れ男」を自認する人が3名もい
て、そのパワーが炸裂したようだ。

午前9時45分JR姫路駅中央出口に参加者
全員が集合。いざ、出陣である。

姫路駅を出るとすぐに、姫路城見学は始まる。
大手前通りを歩きながら、濠跡を探す。山陽電
鉄山陽姫路駅前の横断歩道は、姫路城の外濠
跡である。中濠跡を目指して歩く途中、道沿い
にある「すし宗」の前を通る。「穴子寿司で有名
な店です。お土産に買って帰ると、ご家族に喜
ばれますよ」と、店主になりかわって宣伝した。こ
れが後で、悲劇的
な結末をもたら
すとは、その
時は気づいて
いなかった。

今の国道2号
線が中濠跡である



ことを説明。姫路城を視野の片隅に置きながら、
さらに進む。家老屋敷跡公園は、姫路藩酒井家
家老・高須隼人の屋敷跡。ここで、当日の予定
を参加者に伝える。「観光客が増加していて、混
雑が予想されるため、先に昼食を済ませて、あ
とで姫路城を見学します」。

午前10時30分ごろ好古園(姫路城西御屋敷
跡庭園)内のレストラン「活水軒」で、池を望む窓
際の席を確保。食事提供は11時からというので、
まずは抹茶を一服。その後、穴子井定食などに
舌鼓を打つ。1時間ほど参加者相互の親睦を図
る時を過ごした。好古園の庭園をさっと、見て歩
いた。



好古園の庭園

姫路城への登城である。歴代の城主によって、
少しずつその姿が変えられていった歴史がある。
1560年代(黒田官兵衛時代)、1580年代(秀吉
時代)、1600年代(池田輝政時代)と砦・居館か
ら石垣付きの城、白漆喰総塗籠の外壁を持つ
優雅な城へ。そして1610年代(本多忠政時代)
に、西の丸・三の丸が造営され、姫路城は完成
した。今回の旅では、姫路城の石垣や瓦などを
じっくりと観察し、その変遷の歴史を辿った。

上山里下段石垣には「官兵衛普請の石垣」の説明がある。官兵衛が秀吉のために築いた野面積みの石垣である。「三国堀」や「るの門」横にも「秀吉時代の石垣」が見られる。

瓦については、家紋によって時代を探る。菱の門裏の滴水瓦には桐の紋、「ぬの門」裏の滴水瓦には揚羽蝶紋がある。それぞれ、秀吉、池田輝政の家紋である。ほかの門でも、揚羽蝶紋が散見された。十字紋の鬼瓦も確認した。天守に入る。足腰鍛錬の場である。急峻な階段を踏みしめつつ、6階まで上がった。窓から吹き込む風が心地良かった。

西の丸へ入る前に、3名が「見学終了」を宣言。



希望者だけで、百間廊下を歩き、化粧櫓を見学。この一角は千姫ゆかりの城であることを感じる。

見学を終えた3名から「先に駅に向かい、駅で待つ」との連絡が入った。西の丸見学チーム

も、百間廊下を歩き終わると、駅へと急いだ。途中「すし宗」に入ったところ、駅で待っているはずの先発3人組がいた。穴子寿司を注文する。「売り切れ」との冷たい反応。3人組が買ったところで具材が切れてしまったようだ。姫路城への道中、この店を宣伝せずに、そっと通り過ぎておけば、と思った。一方で、参加者が自分の話をしっかりと聴いてくれた証拠であろうと、自分を慰めた。穴子寿司は次回の姫路訪問への楽しみとしてとっておこう。帰りの電車。有志(呑兵衛?)4人で、ひそかに酒盛りをしている間に、伊丹駅に到着した。

旅の締めくくりに一句。

「仰ぎ見る 城の白さや 天高し」

(末次 記)



Quiz

伊丹文化財クイズ

出題 酒井 正憲

日本遺産認定「伊丹と灘五郷」とラッピングされた伊丹市バスに乗った時、前の座席の背もたれに、「伊丹市 日本遺産クイズ」が掲載されているのを見つけました。お酒を造る工程を答えるクイズでした。

下記の①～⑦をお酒ができる順番に並び替えてください。

- ① 滓引(おりびき)・火入れ・貯蔵
- ② 醪(もろみ)仕込み ③ 蒸米
- ④ 洗米 ⑤ 酏(もと)仕込み
- ⑥ 麴づくり ⑦ しぼり



答えは6ページ



地域教育発祥の地 碑（中野北 1 丁目）



中野素戔鳴神社の東隣りに中野湯出(湯出は当地の旧地名)児童遊園地がある。この遊園地の用地は昭和 31 年まで稲野小学校中野分教場として使用されていた。同年に桜台小学校が開校したのに伴い、分教場は統合され廃止になった。天保 2 年(1831)に寺子屋が開かれて以来 120 余年間教育の場として親しまれてきた歴史を閉じたのである。桜台小学校創立 30 周年にあたりその沿革を記して地域教育の発祥を讃え、これを記念して昭和 61 年、地域教育発祥の地の碑が建立された。

江戸時代、藩校などの武士階級の学校の他に庶民のための学校として寺子屋や郷学があった。新田中野村において天保 2 年(1831)素戔鳴神社の神官杉山周善が寺子屋「酔墨堂」を開校



現在の素戔鳴神社

した。普及地域は新田中野、鴻池、姥ヶ茶屋など広い範囲に及んでいた。生徒数男 75 人、女 35 人で学習科目は読み書き、算術であった。

その後の寺子屋の経過を記す。

- ・明治 6 年(1873) 新田中野・鴻池・荒牧・荻野村が共同で新野小学校を設立する。
- ・明治 13 年(1880) 致道小学校と改称
- ・明治 21 年(1888) 新田中野村他計 10 ヶ村が統合して稲野村が発足する。
- ・明治 24 年(1891) 稲野尋常小学校は統合により校舎が手狭になり、また遠距離通学の解消のため、当地に稲野尋常小学校分教場が設置される。
- ・明治 41 年(1908) 稲野尋常小中野分教場となる
- ・昭和 31 年(1956) 桜台小学校の設立により分教場は廃止となる。

分教場敷地の端部にかつて 300 年ほどの年輪を重ねた榎(エノキ)の古木があり、120 年の歴史を見守ってきた。道路拡幅により古木は道路用地にはみ出すことになったがその部分だけ道路幅を狭めてあった。その後古木は枯れて撤去された。しかし今は記念碑の傍らに植えられた榎が大きく成長してかつての古木の 2 代目として歴史を引き継いでいる。



地域教育発祥の地石碑と2代目の榎

(松田 記)

屋外研修の記録

◆7月21日(木) 千僧・大鹿地区 参加者9名

旧博物館前に集合して千僧から大鹿へ西国街道を辿って歩きました。

千僧地区

天神社には今池譲渡の記念碑があり、同じものが千僧公民館・安楽院・西善寺にもあります。千僧土地改良区が所有する今池を市に譲渡したことを記念して昭和44年に建立したものです。



今池譲渡 記念碑

梶井基次郎の文学碑がある公園からの入り口より西善寺を訪れたところ、どうぞお上がり下さいと本堂に上がらせて頂き、ご住職からお話を伺いました。暑い最中にひと息つくことができました。

大鹿地区

交流センターの道標、以前は街道沿いにあつて移設された地区の大鹿説明看板、黄金の鶏が埋められているという伝説の御塚、妙宣寺門前の竹塚を見て回りました。それから妙宣寺の境内を通過して西皇大神社に到着、屋外研修を終了しました。

◆9月15日(木) 堀池・昆陽 参加者10名

美鈴町バス停に集合、堀池の最光寺、記念碑を経て西天神社から西国街道を東へ歩き、残暑厳しい中、首切り地藏・東の庚申さんで屋外研修は無事解散しました。

堀池地区

・潤谷山最光寺(浄土真宗本願寺派)道場としての創立は江戸初期とされるが、寺の記録は天保期以前のものは全て消失しており、詳しいことは不明です。

・市立人権啓発センターの敷地に記念碑が立っています。「瓦斯輪唧筒(ガソリンそくどう:消火用ポンプ)寄贈者」が刻まれています。同地区出身者が大阪に出て事業に成功を納め、当時村人が何度も火事に被災して欲しがっていた消防ポンプを村に寄贈したことを記念したものです。



猪名野山 中宮寺



西宿寺

昆陽地区

西国街道はガイドで度々案内することがありますが、昆陽地区に中宮寺、西宿寺、観音寺の3つの寺院があることはあまり知られていません。いずれの寺院も西国街道から僅かに外れた場所にありません。3つの寺院はいずれも浄土宗の尼寺で、現在は無住になっています。中宮寺は西天神社に附属した神宮寺とされています。西宿寺は県道米谷昆陽尼崎線の拡幅工事で旧寺院は解体され、現在の民家風に建て替わりました。

【研修サロン班・活動記録】(8月～10月)

(勉強会) 9/1(木)「堀池・昆陽」、10/6(木)「塚口」
(屋外研修) 9/15(木)「堀池・昆陽」、10/21(金)「塚口」

【研修サロン班・活動予定】(11月～1月)

(勉強会) 11/3(木)「川西南部」 (屋外研修) 11/17(木)「川西・南部」



長く続いたコロナもやっと落ち着いたが、またいつ次の波が襲ってくるか、気が気でないですね。このたび、コロナで外出もままならぬ日々、徒然なるままにかかるたや諺、その他慣用句などにコロナという文字をあてはめると、意味が通じる事を発見。

主だったものを下記列挙します。

1. イロハかるた

人も歩けばコロナにあたる・論よりコロナ・花よりコロナ・年寄りにコロナ・チリも積もればコロナとなる・老いてはコロナに従え・泣きっ面にコロナ・楽あればコロナあり・無理が通ればコロナが引っ込む・コロナから出た誠・喉元過ぎればコロナ忘れる・聞いて極楽見てコロナ・目の上のコロナ・身から出たコロナ・コロナに腹はかえられぬ



2. 諺・格言、その他

人を見たらコロナと思え・渡る世間はコロナばかり・敵はコロナにあり・明日はコロナの風が吹く・当たるもコロナ当たらぬもコロナ・暑さ寒さもコロナまで・あとは野となれコロナとなれ・コロナの前の静けさ・コロナ去ってまたコロナ・コロナ降って知固まる・君子コロナに近寄らず・コロナの上にも三年・一難去ってまたコロナ・親の心コロナ知らず・触らぬコロナに祟りなし・コロナに交われば赤くなる
皆さんもヒマな時にいろいろと文書を作成されてはいかがでしょうか。

活動記録 (8月~10月)

【定例会】・8/9 (火) ・9/13 (火) ・10/11 (火)

【案内ガイド】

・9/17 (土) 令和4年度第2回市民ガイド・10/15 (土) Aコース (シニアクラブ 西宮市)・10/15 (土) Fコース (退職員団体 伊丹市)・10/19 (水) Aコース (NPO 法人 相生市)・10/21 (金) Aコース (シニア自然大学 大阪市)・10/22 (土) Aコース (同窓会 西宮市)・10/26 (水) 旧岡田家住宅 (郷土史クラブ 明石市)・10/29 (土) Fコース (セカンドライフ 神戸市)・10/30 (日) 旧岡田家住宅 (まち歩き撮影会 尼崎市)



口酒井遺跡をガイド (10月15日)

【秋の有岡城跡清掃活動】

10月25日 (火) 9名の会員が集合し、古城庵跡を中心に、秋の清掃を行いました。



今後の予定 (11月~1月)

【定例会】・11/8 (火) ・12/13 (火) ・1/17 (火)

【案内ガイド】・11/19 (土) 令和4年度第3回市民ガイド (文化財保護啓発事業)・11/21 (月) Aコース (区民カレッジ 大阪市)・11/24 (木) Aコース (大学OB会 川西市)

※研修サロン班の活動記録と予定はP5に掲載しています。

(伊丹文化財クイズの答え) ④→③→⑥→⑤→②→⑦→①